

- BankART AIR 2021 WINTER OPEN STUDIO 開催
- アートブック/アートグッズ開催!
- BankART KAIKO オープン!
- M meets M 村野藤吾展 横文彦展開催!
- 「えきなか動物園」プラットフォームギャラリー「展覧会の絵」

BankART NEWS Vol.19

発行: BankART1929
2021年1月8日発行

BankART AIR 2021 WINTER OPEN STUDIO 開催!

@ BankART Station & R16 studio

会期 | 2021年2月5日[金]~7日[日] 2月12日[金]~14日[日] 11:00~19:00

会場 | BankART Station(横浜市西区みなとみらい5-1 新高島駅B1F)

R16 studio(横浜市西区桜木町7-48 東横線廃線跡地高架下)

入場無料

BankART Station では、現在16組のアーティスト達が、12月6日から約2ヶ月間、制作活動をおこなっています。また、R16スタジオには、既存作家に加えて都合7組のアーティストが、活動を始めております。基本的には、制作場所(スタジオ)の公開ですが、12月~1月に制作した成果物も発表します。是非皆様、お気軽にご参加ください。

参加作家

BankART Station

- 石川慎平
- 庄司朝美
- 関 和明
- 富田紀子
- クボザイク
- 足立真輝
- 入口可奈子
- 細淵太麻紀
- 宮森敬子
- 秋山直子
- タケサワヒサミ(TQ)
- 保良 雄
- 宮本廉太郎
- 尾山久之助
- 黒田英美
- 橋村至星

R16 studio

- 丸山純子
- asamicro
- 日原聖子
- 山本愛子|今井さつき
- 土屋信子
- 渡辺 篤
- HiroYuki Studio

BankART AIR 2021 WINTER OPEN STUDIO
2021.2.5 fri.-2.7 sun. 2.12 fri.-2.14 sun. 11:00-19:00
BankART Station & R16 studio 入場無料

主催: BankART1929 共催: 横浜市文化観光局

□ BankART Station(新高島駅)
石川慎平/庄司朝美/関和明/富田紀子/クボザイク/足立真輝/入口可奈子/細淵太麻紀/宮森敬子/秋山直子/タケサワヒサミ(TQ)/保良雄/宮本廉太郎/尾山久之助/黒田英美/橋村至星

□ R16 studio(東横線廃線跡地高架下)
丸山純子/asamicro/日原聖子/山本愛子/今井さつき/土屋信子/渡辺篤/HiroYuki Studio

アートブック / アートグッズが集まります!

会期 | 2021年1月15日[金]~31日[日]

11:00~19:00

会場 | BankART KAIKO

(横浜市中区北仲通5-57-2-1F)

みなとみらい線「馬車道駅」2a出口直結徒歩1分

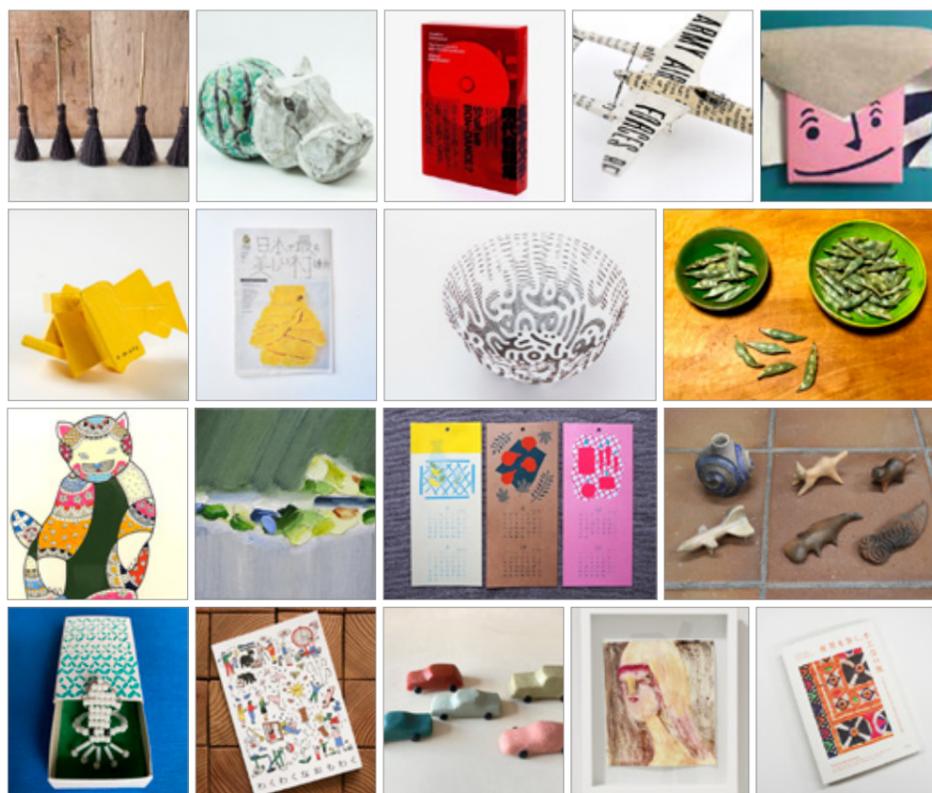
前回、2019年に「BankART Station」で開催したのが、7月5日~21日。今回は、2020年9月にオープンした「BankART KAIKO」でアートブック/アートグッズ第2回目を開催します。書籍、ポストカード、イラスト、写真、絵画、工芸、彫刻、その他あらゆるジャンルの作品、商品を全国のクリエイターから提供していただきました。コロナの大嵐の中で、へこんでばかりはいられません。今やれることを、やっていることを丁寧にやり続けましょう。価格は200円~10万円

ART BOOK / ART GOODS

@ BankART KAIKO

2021.1.15.fri. - 31.sun.

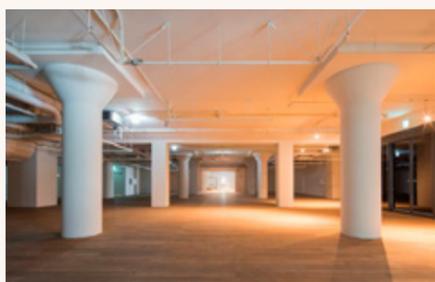
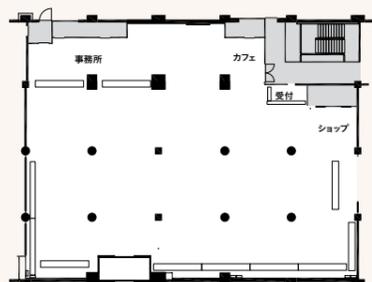
11:00 - 19:00



BankART KAIKO オープン!

横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK&WHITE 1F

もともとは、全国の絹が集まり、日本近代の礎を築いた帝蚕倉庫が広がっていたゾーン。現在、超高層マンション、ホテル、店舗などを中心とした複合施設として生まれ変わろうとしている。BankART KAIKOは、その1926年生まれの帝蚕倉庫の一棟を復元した、2Fがライブハウスの建物の1Fに位置する。BankARTの他の施設と同様、アートスペースとして、展覧会、イベント、ショップなどを展開していく。



M meets M 村野藤吾展 榎文彦展が 開催されました!

M meets M 村野藤吾展 榎文彦展がスタートした。旧帝蚕倉庫を復元リノベーションした「BankART KAIKO」と旧第一銀行（元横浜銀行）を一部保存、復元した「BankART Temporary」がその会場だ。村野氏にしても榎氏にしても、建築に携わる人にとっては、誰もが知っている著名な建築家だが、一般の人は建てられた建築はよく知っている、案外、建築家の固有名詞とは結びつかない。村野氏でいえば、新高輪プリンス、赤坂離宮（迎賓館）、関西大学、旧横浜市庁舎、箱根プリンス、大阪そごう、等。榎氏でいえば、スパイラル、幕張メッセ、金沢区シーサイドタウン（都市計画、並木第一小学校など）、東京体育館、新横浜市庁舎、ヒルサイドテラス等。すべて街に溶け込んでいるポピュラーな建物だ。さて、今回偉大などいっても過言ではない建築家2人を同時にフォーカスすることになったが、これは最初から二人展として企画されたものではない。展覧会構成のクレジットが、各実行委員会からなっているように、もともと独立した展覧会として企画されたものだ。ならば、なぜ「M meets M 村野藤吾展 榎文彦展」になったか？ ふたつの会場の差、二人の世代の差、建築技術（図面も含めて）の違い、などもあいまり、二つの展覧会は、はっきりと印象の異なるものと感じた人も多いはずだ。一言で表すと、暖かさが残る等身大の建築と、他方、手垢を残さないクリアーでモダンな建築、といったところであろう。が、その世代の異なる差異が強く感じるといって、ディテールへのこだわり、そこにいる人を考えた空間、建築の大きさや豊かさに対する感覚、集中と開放など、様々な断面で、時代を超えて同期している印象の方が強い。そういった意味において、MはMに引き継がれて、つぎのMを生んでいくのだ。「M meets M」というフレーズは、そんな日本の建築界の力強いリレーが、今まさにここ横浜でおこっていることを、皆さんに見ていただければという思いから企画されたのだ。（2020.10.30 BankART Blogより）



榎文彦展 2020年10月30日～12月27日 BankART Temporary（主催：榎文彦展開催実行委員会）



村野藤吾展 2020年10月30日～12月27日 BankART KAIKO（主催：村野藤吾建築展実行委員会）



オープニングレセプション、横浜市庁舎アトリウム



左：松隈 洋氏、中：林 琢己氏、右：榎 文彦氏



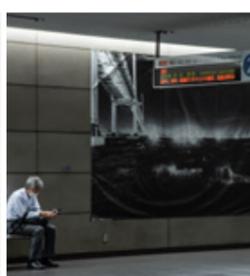
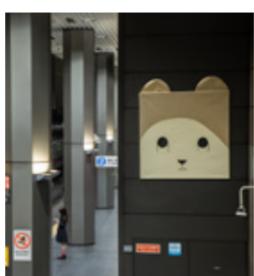
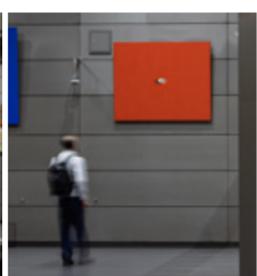
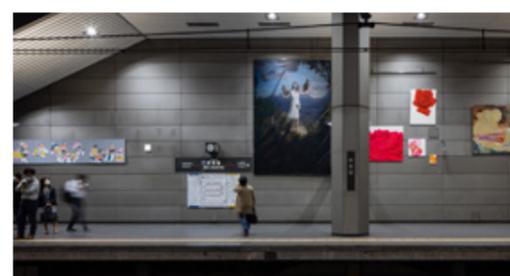
シンポジウム「横浜で建築を考えるということ」

※シンポジウムのアーカイブ動画をM meets M特設サイトより視聴できます
(<http://bankart1929.com/MmeetsM/index.html>)

「えきなか動物園」、プラットフォームギャラリー「展覧会の絵」

2020年9月26日～10月11日 みなとみらい線各駅

「Creative Railway」と称したアートプログラムが、横浜市文化観光局と横浜高速鉄道（株）、横浜創造界隈拠点の主催のもとスタートした。みなとみらい線の横浜駅～新高島/みなとみらい21地区～北仲馬車道地区～日本大通り～元町・中華街の各駅にアートをインストールし、リニアに都市をつなぐ試みだ。BankART1929はBankART StationとBankART Temporaryがある新高島駅と馬車道駅を担当。新高島では、深海のイメージで設計されたという空間に、鮮やかな色の絵画と、逆に真っ黒い画面の写真等を展示した。駅構内が広い馬車道には動物をモチーフにした彫刻群と平面作品をのびのびと展示した。他の駅も、創造界隈のアートスペースが趣向を凝らして展開している。是非一日乗車券（460円）を購入して、駅～駅（街から街）へのマイクロリズムを体験して欲しい。（2020.10.2 BankART Blogより）



BankART Home 終了のお知らせ。

この11月14日（土）をもって BankART Homeを撤退することになりました。2018年5月に BankART Studio NYK が解体され、その頃、行くあてもないまま、「横浜市がやめても BankART1929は続けるぞ」という思いで、自分たちで展開した小さな拠点でした。愛すべき元食堂の名は、「ホームレストラン」。「ホームレストラン」すなわちホームレスのためのレストランと読んでしまっ、「すごい」と思ったのが最初の出会いです。手作りでリニューアルし、本屋とカフェの「BankART Home」へと変換。夜は11時までオープンし、雨の日も人が来ない日も、毎日お店をあげるようにだけしました。あれから2年と少し、もちろん継続してホームを続けたいと思っはいたのですが、新しい拠点「BankART KAIKO」を取得するためには、そう簡単には経済が許してくれませんでした。お世話になった関内地区のクリエイター、市民の方々、遠くから訪ねてくれた皆様に、ひとまずのお別れをしなければなりません。皆さん、本当にこれまでありがとうございました。※ブログ文章の一部改変

編集後記

私たちのプログラムは開発のアクションがはじまると、その度にどこかへいってしまうプロジェクトだった。荒野に投げるブーメランのごとく、先行して点をうち、孤高に立ちつくすことはできても、あとは続かず、強い力の論理に追い払われてしまう構造を常に抱えていた。僕らを牽引してくれた川俣正さんがディレクターを務めた「横トリ2005」を筆頭に、「北仲 Brick & 北仲 White」の巨大シェアスタジオ、黄金町の「BankART 桜荘」、起動にのりはじめたと思えた「旧第一銀行」、新港ピアでの「新・港村～新・港区への活動」、不滅と思われた BankART Studio NYK 等…。うたかたの都市が見る夢のようなプロジェクトが続いていたような気がする。今回も夢をみているのかもしれないが、BankART Temporary（旧第一銀行）と BankART KAIKO（旧帝蚕倉庫）、この二棟で村野藤吾展、榎文彦展を開催できたこと、本当に嬉しく思っている。※バンカースクール2月-3月期は残念ながら緊急事態のため延期です。